

第2次総合計画施策評価シート《令和2年度分》

施策コード	基本目標	5	【都市基盤】 良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち
5	施策目標	2	道路・交通網の充実

SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する								
	目標9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る								
	目標11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する								



目指すべきまちの姿 国道や県道、市道を中心とした道路ネットワークが充実し、鉄道やコミュニティバス等の公共交通の利用も進み、便利で安全・快適な移動手段が確保されています。

●主要施策と概要【PLAN】	この1年間の成果及び反省点【DO】	担当課	評価【CHECK】
(1) 都市計画道路の整備 ・都市計画道路徳波通線をはじめとする都市計画道路の整備を計画的、効率的に進めます。	令和2年度は用地の取得をしました。今後も主要な都市施設として都市の健全な発展のために整備を進める必要があります。また、国や県が整備する都市計画道路については今後も要望活動を実施します。	土木課	A
(2) 都市計画道路の見直し ・社会・経済情勢の変化等をふまえ、都市計画道路の見直しを進めます。	愛知県及び管内市町村と見直し時期等のスケジュールを調整・確認しながら、都市計画道路の見直しに必要となる図書を作成しました。	都市整備課	B
(3) コミュニティバスの利便性向上【重点施策】（再掲） ・市民生活に溶け込んだ移動手段を確保しながら、より効果的な運行体制にするため、地域公共交通網形成計画の見直しを行い、コミュニティバスの利便性の向上を図ります。	令和3年3月に地域公共交通計画を改訂しました。今後、計画に沿って、地域の意見を聞きながら、各ルートの再編を順次実施します。	市民協働課	B
(4) 地域高規格道路の整備促進 ・一宮西港道路の早期の事業化に向け、関係自治体で国や県等の関係機関に対して、引き続き要望していきます。	国土交通省中部地方整備局において、一宮西港道路を含む名古屋都市圏環状機能強化の検討に向けた予算が確保されました。今後も要望活動を実施します。	土木課	A
(5) 国・県道の整備促進 ・国道1号の4車線化及び桁下が低く、堤防が断面不足をしている尾張大橋の架け替えの早期事業化や名古屋第3環状線及び弥富名古屋線等の早期完了に向け、引き続き要望していきます。	国土交通省に対して4車線化及び尾張大橋の架け替えの要望を実施しました。また、名古屋第3環状線の整備促進の要望も実施しました。今後も要望活動を実施します。	土木課	A
(6) 市道の整備 ・幹線道路の早期整備を進めるとともに、老朽化した道路施設を計画的かつ効率的に維持・管理します。	予定通り事業を実施した。今後も市民生活の利便性並びに交通安全の向上のため道路整備を実施し、老朽化した道路を適切に維持・管理します。	土木課	A
(7) 橋りょうの維持管理 ・定期点検において早期に修繕が必要と診断された橋りょうについて、修繕の優先順位を定め、計画的な修繕を図ります。	予定通り事業を実施しました。今後も重要度と緊急性を総合的に判断し、優先順位の高い橋りょうから修繕を実施します。	土木課	A

●施策目標に対する市民満足度	単位	現状値 (2017年度)	目指す方向性	中間値 (2022年度)
道路交通網の整備	%	31.3	↗	
コミュニティバス交通網の整備（再掲）	%	10.7	↗	

●成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値 (目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(1) 都市計画道路改良率	%	44.7	44.7	44.7			→	↗	
(6) 市道改良率	%	47.0	47.4	47.6			↗	↗	
(6) 市道舗装率	%	93.3	93.5	93.5			↗	↗	
(7) 橋りょう修繕箇所（累計）	橋	12	12	13			19	24	

事業 No	実施計画に係る事業名	担当部署	今後の進め方【ACTION】	
(1)	都市計画道路穂波通線街路整備事業	土木課	引き続き穂波通線を整備していく。令和2年度は家屋調査のため予算規模は縮小するが、令和5年度後以降は用地買収・補償・道路工事を行っていくため予算の増額が必要です。	現状維持
(3)	コミュニティバス運行事業（再掲）	市民協働課	令和3年3月に改訂した弥富市地域公共交通計画に沿って、地域特性や利用特性に応じた使いやすい地域公共交通網の形成のため、地域の意見を聞きながら、順次各ルートの公共交通網再編を行います。コミュニティバス以外のデマンド交通の社会実験を行い、再編を検討します。	改善
(6)	道路改良事業	土木課	今後も市民の要望や安全性に問題のある箇所の歩道設置など道路整備を進めます。 令和3年度は鎌倉踏切・鎌倉308号線の歩道設置に向けた設計を行い、計画では令和7年度、令和8年度に踏切改良工事・鎌倉1号橋の架け替え工事が予定されており、多額の工事費用が必要となります。	現状維持
(7)	橋りょう整備事業	土木課	橋梁の点検を適切に進め、修繕の判定が出ている橋梁は、国庫補助金を活用しながら順次補修を行います。令和3年度は海南橋の塗装修繕を予定しており、令和2年度の筋違橋に比べ、橋梁の規模が違いため多額の修繕費用が必要です。今後も、橋梁の修繕については計画的に進めていきます。	現状維持
施策の今後の方針 【ACTION】		今後も、市民の安全性・利便性の向上を図るため、幹線道路整備や狭あい道路整備を行っていく必要があります。 また、道路施設の老朽化対策としては、弥富市道路舗装修繕計画や橋梁長寿命化修繕計画及び個別施設計画に基づき、計画的かつ効率的に修繕を行い、継続的に維持管理を行っていく必要があります。 コミュニティバスにつきましては、地域の特性や実情に沿った公共交通網の編成を行っていく必要があります。		

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(1)	都市計画道路穂波通線街路整備事業	土木課	土木グループ	令和3年7月7日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	5	【都市基盤】 良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち	重点施策
	施策目標	2	道路・交通網の充実	
	主要施策	1	都市計画道路の整備	
	主要事業		都市計画道路穂波通線街路整備事業	
SDGs 連携分野	目標11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する			
				

■事業内容【PLAN】

事業目的	都市計画道路の整備を計画的、効率的に進め、自動車交通の円滑化及び歩行者の安全確保を図ります。					主な協働・ 関連団体等	
事業概要	都市計画道路穂波通線の未整備区間約60mの整備を進めます。						関連する 個別計画・ 根拠法令等
事業の開始・ 終了	開始年度	2006	年度	終了年度	2028	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
	補償金	4,423	補償金	5,000			補償金	4,000
(補助額)	1,000	(補助額)	2,000	(補助額)		(補助額)	2,000	
土地購入費	3,294	土地購入費	3,900	土地購入費	700	土地購入費	3,000	
(補助額)	750	(補助額)	800	(補助額)	350	(補助額)	1,500	
委託料	186	委託料	500	委託料	500	委託料	4,500	
(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	
街路工事請負費	990	街路工事請負費	1,000	街路工事請負費	1,000	街路工事請負費	1,000	
(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	
						不動産鑑定料	500	
(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	0	
合計	8,893	合計	10,400	合計	2,200	合計	13,000	
(補助額)	1,750	(補助額)	2,800	(補助額)	350	(補助額)	3,500	

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(1) 都市計画道路改良率	%	44.7	44.7	44.7				→	↗

指標の分析

暫定整備等は施工しましたが、完全整備ではないため改良率の変化はありませんでした。今後も都市の健全な発展のため、事業の推進に努めます。また、国や県が整備する都市計画道路については整備促進のための要望を行います。

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	都市計画道路に位置づけられており、自動車交通の円滑化及び歩行者の安全確保のためにも、道路整備並びに歩道設置が必要です。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	補償金に関しては、物件調査業務を委託し算出された金額であり、また土地購入費に関しては、不動産鑑定を委託して算出された金額です。コストの削減には繋がっていませんが、適正な金額で買収しました。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか 	道路管理者である市が実施します。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	道路整備及び歩道設置は市民の安全確保に繋がります。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
引き続き穂波通線を整備していく。令和2年度は家屋調査のため予算規模は縮小するが、令和5年度後以降は用地買収・補償・道路工事を行っていくため予算の増額が必要です。	現状維持

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(3)	コミュニティバス運行事業（再掲）	市民協働課	交通防犯グループ	令和3年6月14日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	5	【都市基盤】 良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち	重点施策 ○
	施策目標	2	道路・交通網の充実	
	主要施策	3	コミュニティバスの利便性向上	
	主要事業		コミュニティバス運行事業（再掲）	
SDGs 連携分野	目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する			
	目標9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る			
	目標11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する			
	  			

■事業内容【PLAN】

事業目的	通学・通勤から通院や買い物など、市民生活利便性の向上、高齢者を始めとする交通弱者の移動手段の確保します。					主な協働・ 関連団体等	弥富市地域公共交通活性化協議会	
事業概要	設定した3ルートにおいて、きんちゃんバスを運行します。 ・北部ルート2台 ・南部ルート2台 ・東部ルート1台						関連する 個別計画・ 根拠法令等	弥富市地域公共交通網形成計画
事業の開始・ 終了	開始年度	2012	年度	終了年度	2028		年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
	弥富市地域公共交通 活性化協議会負担金	99,195	弥富市地域公共交通 活性化協議会負担金	105,000	弥富市地域公共交通 活性化協議会負担金	120,000	弥富市地域公共交通 活性化協議会負担金	110,000
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	飛島公共交通バス運 行費負担金	1,000	飛島公共交通バス運 行費負担金	1,000	飛島公共交通バス運 行費負担金	1,000	飛島公共交通バス運 行費負担金	1,000
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	弥富市地域公共交通 活性化協議会委員報 償費	200	弥富市地域公共交通 活性化協議会委員報 償費	300	弥富市地域公共交通 活性化協議会委員報 償費	300	弥富市地域公共交通 活性化協議会委員報 償費	300
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	その他(役務 費等)	73	その他(役務 費等)	94	その他(役務 費等)	94	その他(役務 費等)	94
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)	
	合 計	100,468	合 計	106,394	合 計	121,394	合 計	111,394
	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0	(補助額)	0

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	

指標の分析	
-------	--

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	通学・通勤・通院・買物などの市民生活の移動手段の確保及び公共交通空白地域の解消のため、平成22年6月から公共交通としてコミュニティバスを運行しています。令和元年度実施の住民アンケート(2,000人対象)によると、有効回答のうち61%がバス利用を求める回答でした。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	令和3年3月に弥富市地域公共交通計画を改訂し、地域特性や利用特性に応じた使いやすい地域公共交通網の形成のため、地域の意見を聞きながら、順次各ルートの公共交通網再編を行うこととしました。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか 	コミュニティバスをはじめとした公共交通は、第2次弥富市総合計画、弥富市都市計画マスタープラン、弥富市立地適正化計画、弥富市総合交通戦略などの関連計画を踏まえ実施することが必要となり、市が地域の意見を聞きながら市全体における計画的な実施が必要となります。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	コミュニティバスを始めとした地域公共交通は、総合計画における防犯・交通安全対策の推進を図るために必要な事業です。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
令和3年3月に改訂した弥富市地域公共交通計画に沿って、地域特性や利用特性に応じた使いやすい地域公共交通網の形成のため、地域の意見を聞きながら、順次各ルートの公共交通網再編を行います。コミュニティバス以外のデマンド交通の社会実験を行い、再編を検討します。	改善

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(6)	道路改良事業	土木課	土木グループ	令和3年7月6日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	5	【都市基盤】 良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち	重点施策
	施策目標	2	道路・交通網の充実	
	主要施策	6	市道の整備	
	主要事業		道路改良事業	
SDGs 連携分野	目標11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する			
				

■事業内容【PLAN】

事業目的	安全で快適な道路環境を整え、老朽化した道路施設を計画的かつ効率的に維持管理することにより市民生活の利便性の向上を図ります。					主な協働・ 関連団体等	
事業概要	自転車歩行者道の整備とともに、狭小道路の拡幅整備を行います。 ・五之三78号線 計画延長L=210m、計画幅員W=6.0m ・中央幹線2号 計画延長L=260m、計画幅員W=9.7~11.7m ・鍋平28号線 計画延長L=116m、計画幅員W=11.4~10.0m ・舗装工 23,000m ² ・側溝工 1,800m ・JR鎌倉踏切・鎌倉308号線設計						関連する 個別計画・ 根拠法令等
事業の開始・ 終了	開始年度	2006	年度	終了年度	2028	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
	道路改良工事 (補助額)	90,164 15,206	道路改良工事 (補助額)	120,200 21,365	道路改良工事 (補助額)	90,000 25,000	道路改良工事 (補助額)	80,000 25,000
舗装工事 (補助額)	59,743 0	舗装工事 (補助額)	60,300 0	舗装工事 (補助額)	60,000 0	舗装工事 (補助額)	60,000 0	
側溝工事 (補助額)	20,053 0	側溝工事 (補助額)	20,000 0	側溝工事 (補助額)	20,000 0	側溝工事 (補助額)	20,000 0	
測量設計等 (補助額)	0 0	測量設計等 (補助額)	1,000 0	測量設計等 (補助額)	38,000 0	測量設計等 (補助額)	42,000 0	
合計 (補助額)	169,960 15,206	合計 (補助額)	201,500 21,365	合計 (補助額)	208,000 25,000	合計 (補助額)	202,000 25,000	

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(6) 市道改良率	%	47.0	47.4	47.6			↗	↗	
(6) 市道舗装率	%	93.3	93.5	93.5			↗	↗	

指標の分析 市道整備の実施により市道改良率が向上しました。舗装率については、微増状況です。

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 住民のために効果的なものであり、求められているか 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要であるか 	特に地元からの要望や緊急性のある道路の改良や補修は、市民生活にとって重要であり、車・歩行者・自転車等すべての人が安全で快適に利用するためには必要な事業です。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 前年に比べてどのように工夫したのか コストの削減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 	計画的に適正な方法で改良・補修することで長寿命化を図ります。
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市・住民・団体が誰が実施するのが良いか 	道路管理者である市が実施します。
施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 	整備を要望されている箇所を重点的に、改良や補修することで安全で快適に通行できるよう努めます。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
今後も市民の要望や安全性に問題のある箇所の歩道設置など道路整備を進めます。令和3年度は鎌倉踏切・鎌倉308号線の歩道設置に向けた設計を行い、計画では令和7年度、令和8年度に踏切改良工事・鎌倉1号橋の架け替え工事などが予定されており、多額の工事費用が必要となります。	現状維持

第2次総合計画実施計画事業評価シート《令和2年度分》

事業No	実施計画に係る事業名	課	グループ	作成日
(7)	橋りょう整備事業	土木課	維持管理グループ	令和3年7月7日

■総合計画の位置づけ

基本計画	基本目標	5	【都市基盤】 良好な都市基盤が整った便利で快適に暮らせるまち	重点施策
	施策目標	2	道路・交通網の充実	
	主要施策	7	橋りょうの維持管理	
	主要事業		橋りょう整備事業	
SDGs 連携分野	目標11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する			
				

■事業内容【PLAN】

事業目的	安全に通行できる橋りょうを整備し、快適な市民生活の確保を目的とします。					主な協働・ 関連団体等	
事業概要	定期点検結果において、早期に修繕が必要と診断された橋りょうについて、修繕の優先順位を定めて弥富市橋梁長寿命化修繕計画及び弥富市橋梁個別施設計画に基づき、計画的な修繕・補強を行います。					関連する 個別計画・ 根拠法令等	弥富市橋梁長寿命化修繕計画
							弥富市橋梁個別施設計画
事業の開始・ 終了	開始年度	2016	年度	終了年度	2028	年度	

■事業費(単位:千円)【DO】

事業内訳	2020年度(実績)		2020年度(計画)		2021年度(計画)		2022年度(計画)	
	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)	内訳 (具体的な内容)	事業費 (直接経費)
	橋梁工事請負費 (補助額)	6,481 2,145	橋梁工事請負費 (補助額)	7,000 2,145	橋梁工事請負費 (補助額)	57,000 27,500	橋梁工事請負費 (補助額)	21,000 11,550
橋梁点検委託料 (補助額)	32,557 13,750	橋梁点検委託料 (補助額)	32,500 13,750	橋梁点検委託料 (補助額)	30,000 16,500	橋梁点検委託料 (補助額)	30,000 16,500	
(補助額)		(補助額)	0	(補助額)	9,000 0	測量設計委託料 (補助額)	9,000 0	
(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
(補助額)		(補助額)		(補助額)		(補助額)		
合計 (補助額)	39,038 15,895	合計 (補助額)	39,500 15,895	合計 (補助額)	96,000 44,000	合計 (補助額)	60,000 28,050	

成果指標	単位	現状値	各年度の実績値					目標値(目指す方向性)	
		(2017年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2028年度	
(7) 橋りょう修繕箇所(累計)	橋	12	12	13				19	24

指標の分析 各年度の点検結果も踏まえ、順次橋梁を計画通りに修繕しています。

■事業の評価【CHECK】

項目	評価視点	評価の結果
必要性	・住民のために効果的なものであり、求められているか ・市民ニーズ、社会需要 ・市民生活上必要であるか	橋梁は市民や利用者が日常的に安全・安心に通行するために市民生活上必要なものであり、優先度を決め、点検及び修繕を順次行います。
効率性	・前年に比べてどのように工夫したのか ・コストの削減、費用対効果 ・執行体制の効率性 ・手段の最適性	設計段階で、経済性や事業効果等を検討し、補助金を活用しています。
妥当性	・市・住民・団体が誰が実施するのが良いか	管理者である市が自ら実施すべき事業です。
施策への貢献度	・施策への貢献度 ・目標達成度 ・市民サービスへの効果	橋梁は日常的に道路を通行するために必要なものであり、全市民に対する安心・安全のための事業です。

■今後の進め方【ACTION】

課長意見	方向性
橋梁の点検を適切に進め、修繕の判定が出ている橋梁は、国庫補助金を活用しながら順次補修を行います。令和3年度は海南橋の塗裝修繕を予定しており、令和2年度の筋違橋に比べ、橋梁の規模が違うため多額の修繕費用が必要です。今後も、橋梁の修繕については計画的に進めていきます。	現状維持